

前(第8代)ユネスコ事務局長の松浦晃一郎氏が 特任教授に就任

名古屋学院大学では、6月24日(金)より松浦晃一郎氏が特任教授として就任することが決定いたしました。今後、本学において学術研究や教育の諸活動に対する指導・助言を行うほか、講演会・公開授業の開催などを予定しています。

【主要経歴】

松浦 晃一郎 (まつうら こういちろう)

1956年、東京都立日比谷高等学校卒業。1958年、東京大学法学部在学中に外交官試験に合格し、1959年外務省に入省。在アメリカ大使館参事官、外務大臣官房審議官、香港総領事、経済協力局長、北米局長、外務審議官などを経て1994年駐フランス大使となる。1998年に世界遺産委員会議長に就任、1999年にはアジア人として初めてユネスコ事務局長に就任した。日本ユネスコ協会連盟特別顧問。2009年11月14日にユネスコ事務局長を退任。2期10年の在任中は、ユネスコの組織改革に尽力し縁故人事や不透明経理が横行していた組織内の行政・財政改革を断行。また、無形文化遺産保護条約や文化多様性条約の採択など世界の文化遺産保護に多くの業績を残している。

【その他の経歴】

日本の伝統を守る会副会長、公益財団法人日本棋院評議員、世界ペア基協会会長、公益財団法人日本ペア基協会理事、株式会社ぐるなび総研理事、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター顧問、公益財団法人日本交通文化協会評議員、公益社団法人日本空手協会理事、公益財団法人新国立劇場運営財団理事、公益財団法人五井平和財団評議員、内閣府栄典に関する有識者、産業遺産国民会議発起人、地震火災から文化財を守る協議会顧問、日本食いしんぼ学会発起人、NPO法人ひまわりの会理事、パリ日本文化会館運営審議会日本側委員なども務め、現在も多彩な活動を続けている。

【本学における活動について】

特任教授就任前の2016年6月4日に本学で開催された「2030年に向けた持続的な開発目標(SDGs):国連と地域の連携に関するシンポジウム」(名古屋学院大学・国際連合地域開発センター共催)に長文のメッセージを寄せられるなど、本学国際文化学部の教員・学生が一体となった活動に参加。2016年度秋には、市民向けの講演会や市民・学生・研究者・国連関係者などとともに国際協力や世界文化遺産保護に関するフォーラムを予定している。2015年度に新たに設置された国際文化学部国際文化学科・国際協力学科を実践的にサポートする特任教授として、名実ともに名古屋・中部地区での活躍が期待されている。特に、国際協力分野の指導者として、教員への助言や学生の教育面での指導を通して、国際協力学科の一層の充実への強力な支援を得ることとなる。任期は3年間で、その後については改めて協議することとなっている。